

1999年2月3日

北海道知事 堀達也 様

(社) 北海道自然保護協会

会長 俵 浩三



士幌高原道路の時のアセスメントに関して情報公開を求める要望書

本年1月27日づけ道計第381号で照会のありました「道道士幌然別湖線」の今後のあり方に関して、本日、別紙のとおり意見を申し述べました。

つきましては、本件に関連し、下記の事項に対して早急に適切な対処をしてくださるよう、お願い申し上げます。新しい行政に求められているのは、北海道の情報に関して「道民による行政参加と監視の観点から、…だれでもが知りたいときに自由に知り得る権利を明らかにするとともに、道政の諸活動について説明する責任を全うすることにより、その公開性を高め、及び道民参加を促進するものでなければならない」（北海道情報公開条例前文）という理念を、現実のものとする事です。

記

1 昨年9月8日づけ「士幌高原道路に関する基本問題を時のアセスで検証し計画を撤回することの要望書」に対して、検証の中間報告を行うこと

北海道自然保護協会は、十勝自然保護協会、北海道自然保護連合と連名で、標記の要望書を昨年9月8日に提出いたしました。そこでは、「その検証の過程および考え方の根拠、理由を、時のアセスの中間報告の一環として公表し、かつ行政の説明責任を果たすこと」を求めています。

これを提出したとき、担当の責任者の方は、その趣旨に努力することを表明してくださいました。ところが以来、半年近くが経過し、本年3月の最終結論を控えた大詰めに迎えた今日になっても、これらのことをどう検証したのか、しないのか明らかにせず、不透明な状況です。時のアセスの本旨は、「時の流れという、過去から現在の検証を通じて、北海道は新しい未来を創造していく」ことにあり、私たちが求めた検証事項は、この本旨に沿ったものです。

ところが北海道から中間報告されたものは、「過去から現在の検証」とは無縁の、道

路建設を前提とした「経済効果」や「道民意識調査」だけで、時のアセスで最も重要な標記に関する事項は闇の中です。

これでは、時のアセスの基本論議が深められないばかりか、重要事項が置き去りにされる懸念が増大します。

したがって、早急に標記事項の検証状況を公表し、説明してください。

2 「道民意識調査」の地元3町のアンケート結果の町別内訳を公表すること

「道民意識調査」は昨年10月に中間報告があり、去る2月1日に「分析」が公表されました。しかし地元3町の町別内訳の記載がありません。担当責任者の話では、町別内訳のデータはないとのこと。しかしこれは単純集計すれば即座に明らかになるものです。

なぜ町別内訳が必要かといえば、北海道では地元自治体の首長からも士幌高原道路に関する意見を聴取すると伝えられているからです。せっかく北海道が地元3町で3千人規模（回答者は1千8百人）の意識調査を行いながら、その地元自治体の首長は、自分の町の町民が士幌高原道路に対してどんな意識をもっているか、知りえないまま、北海道に意見をいわなければならない、というのは不思議なことです。

例えば、地元3町での、農業や商業などでの「売上が増加すると思う」は34.3%なのに、「思わない」は50.3%という結果が出ています。士幌町では、町の広報紙を通じて士幌高原道路の必要性や効果のキャンペーンを繰り返してきたので、当然のこととして士幌高原道路に肯定的な見方をする町民が多いと思われる。それにもかかわらず「思わない」が大きく上回ったということは、鹿追町や上士幌町の町民には、士幌高原道路に対して否定的見方をする町民が多いからではないかと思われます。士幌高原道路により士幌町に観光客が流れれば、それだけ鹿追町や上士幌町の観光客の減少につらなると町民が直感しているのかもしれませんが。

そのようなことを地元自治体の首長が知り得ないで、多くの町民の意向と反する意見をいっても、表面的で形式的なものとの批判をまぬがれません。

したがって道民意識調査の地元3町の町別内訳を直ちに公表してください。

3 土幌高原道路に対する学識経験者の意見聴取に際して、学識経験者に配布した「判断資料」を公開すること

時のアセスの担当責任者によれば、北海道では学識経験者11名から、土幌高原道路に関する意見聴取を行うため、すでに学識経験者に対して「判断資料」を配布してあるとのことです。

そこで「判断資料」の内容を公開するようお願いしましたが、非公開とのことでした。「学識経験者に迷惑がかかる」という理由の由です。しかし私たちは「判断資料」の公開を求めているのであり、学識経験者の氏名の公開を求めているわけではありません。本来は氏名も明らかにするのが当然ですが、氏名を明らかにしなければ、学識経験者に迷惑のかかりようがありません。

この意見聴取は「審議会」ではありませんが、北海道の審議会は公開が原則です。それにもかかわらず、配布した「判断資料」の公開もしないというのは、土幌高原道路の推進にとって都合の悪い資料は配布していないのではないか、との疑いを払拭することができません。

この意見聴取は学識経験者に第三者として、客観的な判断、意見を求めるものですから、そもそも土幌高原道路がなぜ時のアセスメントの対象となったかの要因である「施策の円滑な推進に課題を抱えており」という課題、すなわち自然保護の面でどんな問題点があるかについての資料も当然含まれていなければなりません。

私たちは、自然保護に関するどんな情報が学識経験者に配布されたを知りたいために公開を求めたのです。ところが、それを非公開とすることは、自然保護の情報が学識経験者に伝わっていないのではないかと、疑念をもたざるを得ません。万一にも都合の悪い情報を伝えていないとしたら、せっかく全国的に高い評価をうけつつある時のアセスが、冷笑の対象とされるだけです。

そのような批判を受けないためにも、学識経験者に配布した「判断資料」の内容を直ちに公開してください。

(追記)

なお、その公開とは別に、今回の「意見を聞く会」で各種団体から出された賛否双方の意見も、追加資料として学識経験者に配布されるように要望いたします。



目録

「士幌高原道路計画撤回を求める署名提出」			
1992年11月~1996年11月	120,	456	筆
大雪山国立公園内 「士幌高原道路の建設に反対する署名」			
1996年12月~1999年1月	大石武一様	83.837	筆
累	計	204.293	筆

1999年2月3日

北海道知事 堀 達也 様

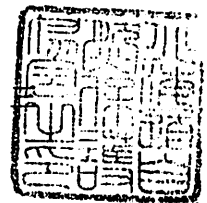
十勝自然保護協会
士幌高原道路に反対する連絡会

代表 及 川



(社) 北海道自然保護協会

会 長 俵 浩



北海道自然保護連合

代 表 稲 田 孝

